

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492700018		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	グループホーム もも太郎さん(大郷) ユニット:1階		
所在地	宮城県黒川郡大郷町中村字原町10-5		
自己評価作成日	令和4年1月28日	評価結果市町村受理日	

## ※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	令和4年2月18日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・暮らしなれた場所で顔なじみの地域の人と交流が持てるように支援していきます。  
 ・大切な人との絆を断ち切らず、コロナ禍でも感染予防対策を行いながら電話連絡や面会場所を設けて会うことができるようにしています。  
 ・今年度は児童館との交流会が開催されませんでした。感染予防対策が万全となった場合には交流会を再開したいと考えています。交流会は毎月行われておりましたので、再開を心待ちにしているご利用者様もおられます。  
 ・大郷町の中心地域にあり、行き慣れたお店が多い地区となります。職員と一緒に買い物しやすい環境となります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは大郷町中心部の行政・商業施設などがある利便性の良いところにある。2階建、2ユニットの建物の両脇には非常外階段が設けられ、リビングは窓が多く、陽射しが入り明るい造りになっている。母体法人は福島に本部を置き、山形、宮城でもグループホームや小規模多機能型居宅介護事業所を運営している。運営理念の一つである「家族の絆を大切に」を活かした取組として、各階に2部屋、合計4部屋の家族部屋を設け夫婦でも入居することができる。町役場の職員とも、いつでも報告・相談できる関係性が構築されている。通院受診の際は原則職員が同行し、医師に利用者の状態を説明している。常勤看護師も配置され、医療連携が図られている。利用者が自宅のように食事の献立作りから調理など、職員と一緒に行動するなど、生活習慣の継続を大切にしている。車椅子対応の車両があるため、車椅子の利用者も外出することができ、コロナ禍の中でもドライブを企画し外出するなど、利用者のストレス軽減にも努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームもも太郎さん 大郷 ）「ユニット名 1 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人で未経験の職員が多く、理解度は低いが理念を掲示し共有に努めている。	「もも太郎さん運営理念『自由を尊重する。』『家族の絆を大切にする。』を事務所に掲示しケアに活かし取り組んでいる。今後、運営理念を基にユニット毎の目標を立てるため話し合いを予定している。いつでも確認ができるよう職員個別の研修ファイルに、運営理念等の資料がファイルされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため、直接的な交流が出来ていない。	町内会に加入しており、回覧板から町内の情報等を得ている。現在は、コロナ禍のため、ボランティアや児童クラブとの交流は控えているが、町内に職員が住んでいる状況もあり、地域内での連絡連携体制が取りやすい環境である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため、直接的な関わりが出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため、運営推進会議の開催ができなかった。	運営推進委員会は、コロナ禍で開催されていない。以前参加していたメンバーへ、口頭で空室状況などの連絡や報告を行っている。家族にはホームの広報紙を配布し状況報告をしている。	コロナ禍でも、以前のように運営推進会議メンバーからの意見や助言を得てサービスの質の向上に活かす取組ができるよう、検討し実施することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば相談し対応している。地域の虐待事例に関して連携して対応している。	町役場の職員が外部評価調査時に同席し状況を把握しており、利用者に関する申請手続き等、相談・連携を図りながら実施している。何か不明なことがある場合には、都度相談できる体制が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。玄関の施錠はオートロックタイプで自動で施錠されるが、暖かい日や天候が良い日には終日開放している。	同法人の事業所と合同で委員会を開催し、身体拘束廃止についての研修や事例検討を行っている。職員には、委員会で検討された事項を報告し周知している。危険防止のため、利用者の状況に合わせ出入り口にセンサーを設置している。ベッド柵をなるべく使わないようにするため、代替の対策を検討している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人職員が多く、ご利用者様に対する声掛けが厳しい口調となる場面が見受けられることがあったが、都度面談を行い不適切な声掛けとならないよう努めている。	職員はケアを振り返りながら、不適切ケアの事例検討を行い、不適切にあたらなかったかを確認している。気付いた場合は管理者及びブロック長に報告し、対応する仕組みを設けている。管理者は個人面談の他、日常的にも職員から話を聴くように努め、職員同士も都度、声を掛け合ったり、話をするなど予防に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しているケースが1件あったが、成年後見制度の内容について学ぶ機会が持てなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には疑問点が無いか尋ね、契約書の内容を説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催も新型コロナウイルス感染予防のため中止となっており、意見や要望を聞き取る機会が減った。電話の際には聞き取るように心掛けている。	意見箱を玄関に設置している。コロナ感染予防のため面会を控えており、意見を聞く機会が少ないが、電話で要望が寄せられることもあり、運営に活かしている。苦情処理体制も整えられ、ホームの窓口の他、本社にも受付窓口を設け対応している。第三者委員も委嘱している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の開催も減っている状況がある。提案があれば都度聞いている状況だが、機会を増やしていきたいと考えている。	職員からの意見・要望は、日常的に聞き取るように努めている。希望に合わせシフト交換に対応したり、働きやすいよう工夫している。職員からは備品の買い替えや床の張り替え等の提案があり、現場の声を改善に繋げた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、給与水準、労働時間やりがいや向上心を持って働けるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を受けることは進めているが外部研修は感染予防対策のため控えている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ネットワーク作りや訪問活動を推進しサービスの質を向上させていく取組みをしているが感染予防対策のため訪問は実施できず主に電話での連絡・相談となっている。	他事業所とはコロナ禍でも、連絡を取り合い情報共有などを行っている。以前は訪問活動も積極的に行っていたが、現在はいつでも電話で連絡・相談が行なえる関係が構築されている。同業者以外でも、病院や地域包括支援センターなどとも連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていること、不安なこと、要望等聞き取りながら関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が必要としているニーズを把握し、他のサービス利用も含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努めている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築けるよう努めている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋を利用したり、馴染みの商店で買い物できるよう支援している	馴染みのスーパーへ買い物に行き、顔見知りの人と世間話を交わす関係が続いている。家族や知人と電話で話ができるよう支援している。ドライブで馴染みの場所や自宅へ出掛けることもある。利用者の希望があれば、墓参りにも行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しくおしゃべりしたり関わり合い、支え合えるような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援をしていくようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、希望や要望を聞いている。職員は認知症についての研修を受講し、理解を深め、利用者の思いの把握に努めている。日頃から体の動きや表情を確認し、いつもと違う時は、声掛けを行ったり話を聴いている。3ヶ月毎に職員間で話合う機会を持っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成できるよう努めている	本社から職員が講師として来所し、アセスメント作成方法などの研修を行い、理解を深めケアに活かしている。日々の利用者との会話から情報を得たり、家族からの要望を聞きながら介護計画を作成している。一人ひとりの状態を確認の上、医師や看護師から栄養面等の助言を受け、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を受診している利用者が多い。基本職員が受診の際に同行している。常勤看護師が配置されており、利用者の状態を文書で医師に伝え適切な受診ができるよう努めている。受診結果は申し送りノートに記録し、職員間で情報共有しケアに活かしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を中心に適切な支援を行い、医療的に不安があればかかりつけ医に相談し、受診に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際にはMSWと連携を取りながら早期退院・退院調整に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	感染予防対策のため家族と話し合う機会が減っていた。情報共有が希薄になり、十分な説明も行えていなかった。	入居時に、看取りや医療連携についてなど、ホームでできること、出来ないことについて説明している。重度化した場合は、家族や医師と相談し対応を決めている。往診医が不在の為、今年度は看取り実績はなかった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	未経験者が多く未熟な面が目立つ。緊急時には管理者、看護師の指示が必要な状況。定期的な訓練は未実施だが行う予定である。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法定の年2回の避難訓練を実施している。地域の方と連携した動きは感染予防対策のため控えている。	火災対応マニュアルが整備され、年2回避難訓練を実施し、その際、業者が消火器などの設備点検を行っている。地域住民の協力を得られる関係にはあるが、コロナ禍のため参加はしていない。備蓄品は3日分を保管し、担当者が管理している。建物の2階の両側から避難できるよう、非常階段がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な声掛けが聞かれたことがあり、なぜそのような声掛けとなったのか面談を行っている。業務中心に考えてしまう傾向とならない様に周知徹底している。	ケアの振り返りを行い改善に努めている。呼び名は利用者の希望により、名字や名前に「さん」を付けて呼んでいる。排泄介助時の声掛けや誘導は、特に配慮しさりげなく行っている。利用者の状態に合わせ必要な場合には、居室入り口に名札を掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の声を尊重し、くみ取り、問いかけたりしながら自己決定できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ一人一人のペースに合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えられるように支援をしている。その人らしさを失わずに清潔を保てるよう支援をしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものなど聞き取りをしながらメニューに取り入れている。食事準備は主に職員が行っているが野菜の皮むきや食器洗いを手伝っていただく利用者様がいる。	利用者も関わりながら、職員が季節を感じるられるよう配慮した献立作りをしている。麺類のリクエストが多い。食前には口腔体操を行っている。残存能力に合わせ、準備や後片付けも一緒に行い、役割を担い楽しみがもてるよう取組んでいる。通院時に、家族と外食する人もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分等の摂取量を記録・把握しながら確保できるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗を減らせるように、排泄パターンを掴みながらトイレでの排泄ができるよう支援している	排泄チェック表から排泄パターンを把握し支援している。部屋にトイレが設置してあり、夜間も利用者のペースで排泄ができるよう、声掛けや誘導をしている。食事の際に乳製品や寒天を取り入れたり、軽運動を行い便秘予防に配慮している。医師から処方された薬を服用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師を中心に排便の回数・形状を観察し、排便難がある場合は速やかに医師へ連絡し対応している		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人に声を掛け自分のペースで入浴できるように支援している	居室に浴室が設けられているが、共同浴場で週2～3回、午前中に入浴支援を行っている。希望により毎日入浴する利用者もいる。一人ひとり湯を入替え好みの湯温にしており、入浴剤を使用したり楽しく入れるよう取り組んでいる。清潔保持に努め、気分よく入浴できるよう誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状況を見て落ち着いて休めるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に服薬内容を理解し、変更があった際には周知している。副作用の影響が出ていないか変更後には特に注意して様子を見ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人テーブルを拭く人や下膳を手伝う人、洗い物を手伝う人がいる。懐かしの歌を中心に聞いたり歌ったりして過ごしている		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防対策のため外出の機会が減り、気分転換にも制限が出ている。安心して出かけられる日を待ち遠しく思っている	外出の回数は減っているが、山や海などに出掛けている。車椅子対応の車両があるため、車椅子の利用者も一緒に外出することができる。日常的に散歩に出掛けたり、玄関脇のベンチで外気浴をしている。馴染みのスーパーへ買い物へ行ったり、通院時に家族と自宅へ行く利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度の所持をされている方もいる。ジュースや菓子の購入希望時は、職員が要望を聞き取り購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「うちに電話したい」等の申し出があった際には電話を掛けられるように支援している		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快感が無い様に配慮している。	大きな窓があり陽射しが入り明るい。ソファが設けられ、利用者が自由にくつろぐことができる。台所からリビングが見え、利用者の様子を確認したり、対話がしやすい。温・湿度管理は職員が行い、コロナ感染予防を徹底し、換気を十分に行っている。敷地内に自動販売機がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席があり、気の合う人の近くで過ごせるようにしている		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた家具を持ち込んでいる方やテーブル・テレビ等思い思いに持ち込みされており、推奨している。	各居室や家族部屋にはトイレや浴室が付いており、ベッド、クローゼット、洗面台、エアコン、扇風機、テレビ等が設置されている。緊急時の呼び出しコールも付いている。利用者は馴染みの家具や植物、仏壇などを持ち込み、自分らしい部屋にしている。職員が、温・湿度管理や掃除を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に合わせて安全で清潔に過ごせるよう配慮し、自分でできることは自分で行ってもらえるように支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492700018		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	グループホーム もも太郎さん(大郷) ユニット:2階		
所在地	宮城県黒川郡大郷町中村字原町10-5		
自己評価作成日	令和4年1月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	令和4年2月18日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・暮らしなれた場所で顔なじみの地域の人と交流が持てるように支援していきます。  
 ・大切な人との絆を断ち切らず、コロナ禍でも感染予防対策を行いながら電話連絡や面会場所を設けて会うことができるようにしています。  
 ・今年度は児童館との交流会が開催されませんでした。感染予防対策が万全となった場合には交流会を再開したいと考えています。交流会は毎月行われておりましたので、再開を心待ちにしているご利用者様もおられます。  
 ・大郷町の中心地域にあり、行き慣れたお店が多い地区となります。職員と一緒に買い物しやすい環境となります。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは大郷町中心部の行政・商業施設などがある利便性の良いところにある。2階建、2ユニットの建物の両脇には非常外階段が設けられ、リビングは窓が多く、陽射しが入り明るい造りになっている。母体法人は福島に本部を置き、山形、宮城でもグループホームや小規模多機能型居宅介護事業所を運営している。運営理念の一つである「家族の絆を大切に」を活かした取組として、各階に2部屋、合計4部屋の家族部屋を設け夫婦でも入居することができる。町役場の職員とも、いつでも報告・相談できる関係性が構築されている。通院受診の際は原則職員が同行し、医師に利用者の状態を説明している。常勤看護師も配置され、医療連携が図られている。利用者が自宅のように食事の献立作りから調理など、職員と一緒にするなど、生活習慣の継続を大切にしている。車椅子対応の車両があるため、車椅子の利用者も外出することができ、コロナ禍の中でもドライブを企画し外出するなど、利用者のストレス軽減にも努めている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームもも太郎さん 大郷 ）「ユニット名 2 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人で未経験の職員が多く、理解度は低いが理念を掲示し共有に努めている。	「もも太郎さん運営理念『自由を尊重する。』『家族の絆を大切に。』を事務所に掲示しケアに活かし取り組んでいる。今後、運営理念を基にユニット毎の目標を立てるため話し合いを予定している。いつでも確認ができるよう職員個別の研修ファイルに、運営理念等の資料がファイルされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため、直接的な交流が出来ていない。	町内会に加入しており、回覧板から町内の情報等を得ている。現在は、コロナ禍のため、ボランティアや児童クラブとの交流は控えているが、町内に職員が住んでいる状況もあり、地域内での連絡連携体制が取りやすい環境である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため、直接的な関わりが出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため、運営推進会議の開催ができなかった。	運営推進委員会は、コロナ禍で開催されていない。以前参加していたメンバーへ、口頭で空室状況などの連絡や報告を行っている。家族にはホームの広報紙を配布し状況報告をしている。	コロナ禍でも、以前のように運営推進会議メンバーからの意見や助言を得てサービスの質の向上に活かす取組ができるよう、検討し実施することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば相談し対応している。地域の虐待事例に関して連携して対応している。	町役場の職員が外部評価調査時に同席し状況を把握しており、利用者に関する申請手続き等、相談・連携を図りながら実施している。何か不明なことがある場合には、都度相談できる体制が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。玄関の施錠はオートロックタイプで自動で施錠されるが、暖かい日や天候が良い日には終日開放している。	同法人の事業所と合同で委員会を開催し、身体拘束廃止についての研修や事例検討を行っている。職員には、委員会で検討された事項を報告し周知している。危険防止のため、利用者の状況に合わせ出入り口にセンサーを設置している。ベッド柵をなるべく使わないようにするため、代替の対策を検討している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人職員が多く、ご利用者様に対する声掛けが厳しい口調となる場面が見受けられることがあったが、都度面談を行い不適切な声掛けとならないよう努めている。	職員はケアを振り返りながら、不適切ケアの事例検討を行い、不適切にあたらなかったかを確認している。気付いた場合は管理者及びブロック長に報告し、対応する仕組みを設けている。管理者は個人面談の他、日常的にも職員から話を聴くように努め、職員同士も都度、声を掛け合ったり、話をするなど予防に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しているケースが1件あったが、成年後見制度の内容について学ぶ機会が持てなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には疑問点が無いか尋ね、契約書の内容を説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催も新型コロナウイルス感染予防のため中止となっており、意見や要望を聞き取る機会が減った。電話の際には聞き取るように心掛けている。	意見箱を玄関に設置している。コロナ感染予防のため面会を控えており、意見を聞く機会が少ないが、電話で要望が寄せられることもあり、運営に活かしている。苦情処理体制も整えられ、ホームの窓口の他、本社にも受付窓口を設け対応している。第三者委員も委嘱している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の開催も減っている状況がある。提案があれば都度聞いている状況だが、機会を増やしていきたいと考えている。	職員からの意見・要望は、日常的に聞き取るように努めている。希望に合わせてシフト交換に対応したり、働きやすいよう工夫している。職員からは備品の買い替えや床の張り替え等の提案があり、現場の声を改善に繋げた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、給与水準、労働時間やりがいや向上心を持って働けるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を受けることは進めているが外部研修は感染予防対策のため控えている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ネットワーク作りや訪問活動を推進しサービスの質を向上させていく取組みをしているが感染予防対策のため訪問は実施できず主に電話での連絡・相談となっている。	他事業所とはコロナ禍でも、連絡を取り合い情報共有などを行っている。以前は訪問活動も積極的に行っていたが、現在はいつでも電話で連絡・相談が行なえる関係が構築されている。同業者以外でも、病院や地域包括支援センターなどとも連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていること、不安なこと、要望等聞き取りしながら関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が必要としているニーズを把握し、他のサービス利用も含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努めている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築けるよう努めている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋を利用したり、馴染みの商店で買い物できるよう支援している	馴染みのスーパーへ買い物に行き、顔見知りの人と世間話を交わす関係が続いている。家族や知人と電話で話ができるよう支援している。ドライブで馴染みの場所や自宅へ出掛けることもある。利用者の希望があれば、墓参りにも行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しくおしゃべりしたり関わり合い、支え合えるような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援をしていくようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、希望や要望を聞いている。職員は認知症についての研修を受講し、理解を深め、利用者の思いの把握に努めている。日頃から体の動きや表情を確認し、いつもと違う時は、声掛けを行ったり話を聴いている。3ヶ月毎に職員間で話合う機会を持っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成できるよう努めている	本社から職員が講師として来所し、アセスメント作成方法などの研修を行い、理解を深めケアに活かしている。日々の利用者との会話から情報を得たり、家族からの要望を聞きながら介護計画を作成している。一人ひとりの状態を確認の上、医師や看護師から栄養面等の助言を受け、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を受診している利用者が多い。基本職員が受診の際に同行している。常勤看護師が配置されており、利用者の状態を文書で医師に伝え適切な受診ができるよう努めている。受診結果は申し送りノートに記録し、職員間で情報共有しケアに活かしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が中心となり適切な支援を行い医療的に不安があればかかりつけ医に相談し、受診に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際にはMSWと連携を取りながら早期退院・退院調整に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	感染予防対策のため家族と話し合う機会が減っていた。情報共有が希薄になり、十分な説明も行えていなかった。	入居時に、看取りや医療連携についてなど、ホームでできること、出来ないことについて説明している。重度化した場合は、家族や医師と相談し対応を決めている。往診医が不在の為、今年度は看取り実績はなかった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	未経験者が多く未熟な面が目立つ。緊急時には管理者、看護師から指示が必要な状況。定期的な訓練は未実施だが行う予定である。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法定の年2回の避難訓練を実施している。地域の方と連携した動きは感染予防対策のため控えている。	火災対応マニュアルが整備され、年2回避難訓練を実施し、その際、業者が消火器などの設備点検を行っている。地域住民の協力を得られる関係にはあるが、コロナ禍のため参加はしていない。備蓄品は3日分を保管し、担当者が管理している。建物の2階の両側から避難できるよう、非常階段がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な声掛けが聞かれたことがあり、なぜそのような声掛けとなったのか面談を行っている。業務中心に考えてしまう傾向とならない様に周知徹底している。	ケアの振り返りを行い改善に努めている。呼び名は利用者の希望により、名字や名前に「さん」を付けて呼んでいる。排泄介助時の声掛けや誘導は、特に配慮しさりげなく行っている。利用者の状態に合わせ必要な場合には、居室入り口に名札を掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の声を尊重し、くみ取り、問いかけたりしながら自己決定できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ一人一人のペースに合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えられるように支援をしている。その人らしさを失わず清潔を保てるよう支援をしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものなど聞き取りをしながらメニューに取り入れている。食事準備は主に職員が行っているが野菜の皮むきや食器洗いを手伝っていただくご利用者様がいます。	利用者も関わりながら、職員が季節を感じるよう配慮した献立作りをしている。麺類のリクエストが多い。食前には口腔体操を行っている。残存能力に合わせ、準備や後片付けも一緒に行い、役割を担い楽しみがもてるよう取り組んでいる。通院時に、家族と外食する人もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分等の摂取量を記録・把握しながら確保できるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗を減らせるように、排泄パターンを掴みながらトイレでの排泄ができるよう支援している	排泄チェック表から排泄パターンを把握し支援している。部屋にトイレが設置してあり、夜間も利用者のペースで排泄ができるよう、声掛けや誘導をしている。食事の際に乳製品や寒天を取り入れたり、軽運動を行い便秘予防に配慮している。医師から処方された薬を服用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師を中心に排便の回数・形状を観察し、排便難がある場合は速やかに医師へ連絡し対応している		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人に声を掛け自分のペースで入浴できるように支援している	居室に浴室が設けられているが、共同浴場で週2～3回、午前中に入浴支援を行っている。希望により毎日入浴する利用者もいる。一人ひとり湯を入替え好みの湯温にしており、入浴剤を使用したり楽しく入れるよう取り組んでいる。清潔保持に努め、気分よく入浴できるよう誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状況を見て落ち着いて休めるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に服薬内容を理解し、変更があった際には周知している。副作用の影響が出ていないか変更後には特に注意して様子を見ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人テーブルを拭く人や下膳を手伝う人、洗い物を手伝う人がいる。懐かしの歌を中心に聞いたり歌ったりして過ごしている		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防対策のため外出の機会が減り、気分転換にも制限が出ている。安心して出かけられる日を待ち遠しく思っている	外出の回数は減っているが、山や海などに出掛けている。車椅子対応の車両があるため、車椅子の利用者も一緒に外出することができる。日常的に散歩に出掛けたり、玄関脇のベンチで外気浴をしている。馴染みのスーパーへ買い物へ行ったり、通院時に家族と自宅へ行く利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度の所持をされている方もいる。ジュースや菓子の購入希望時は、職員が要望を聞き取り購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「うちに電話したい」等の申し出があった際には電話を掛けられるように支援している		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快感が無い様に配慮している。	大きな窓があり陽射しが入り明るい。ソファが設けられ、利用者が自由にくつろぐことができる。台所からリビングが見え、利用者の様子を確認したり、対話がしやすい。温・湿度管理は職員が行い、コロナ感染予防を徹底し、換気を十分に行っている。敷地内に自動販売機がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席があり、気の合う人の近くで過ごせるようにしている		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた家具を持ち込んでいる方やテーブル・テレビ等思い思いに持ち込みされており、推奨している。	各居室や家族部屋にはトイレや浴室が付いており、ベッド、クローゼット、洗面台、エアコン、扇風機、テレビ等が設置されている。緊急時の呼び出しコールも付いている。利用者は馴染みの家具や植物、仏壇などを持ち込み、自分らしい部屋にしている。職員が、温・湿度管理や掃除を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に合わせて安全で清潔に過ごせるよう配慮し、自分でできることは自分で行ってもらえるように支援している。		